

# 「平成30年7月西日本豪雨災害での笠戸島住民孤立」に関する アンケート調査の結果について（速報）

大島商船高等専門学校商船学科 准教授 行平真也

## 1. はじめに

2019年3月に平成30年7月西日本豪雨災害によって孤立した地区に居住する笠戸島住民を対象にアンケート調査を実施した。配布枚数637件中340件回収した(回収率53.4%)。そのうち、338件を有効回答とした。今後、詳細な分析が必要であるが、単純集計した結果について速報として紹介する。

## 2. 結果

### 2-1. 回答者の属性について

性別は男性が73.8%と多く、女性が26.2%であった。

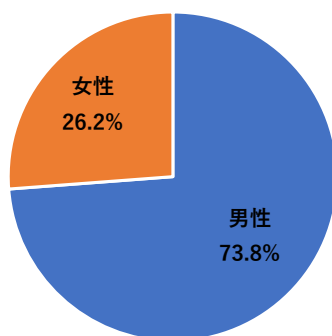


図1 回答者の性別 (n=338)

年代は60代が最も多く、60代以上の回答者が過半数を占めていた。

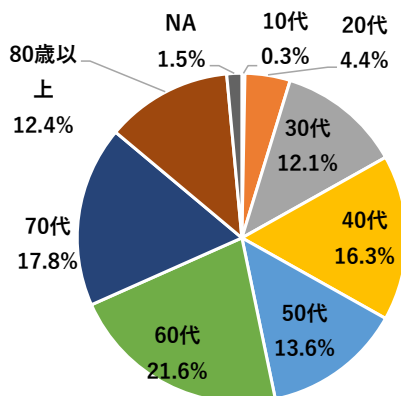


図2 回答者の年代 (n=338)

回答者の居住地は江の浦（新笠戸ドック）が最も多く、深浦と続いた。

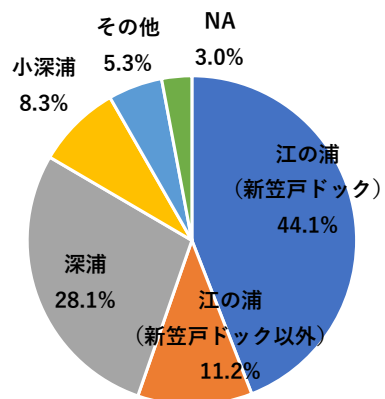


図3 回答者の居住地 (n=338)

孤立時に一緒に暮らしていたご家族の数については1人が最も多く、次いで2人であった。回答者の113件(33.4%)は自分以外の同居者がいたことが分かった。

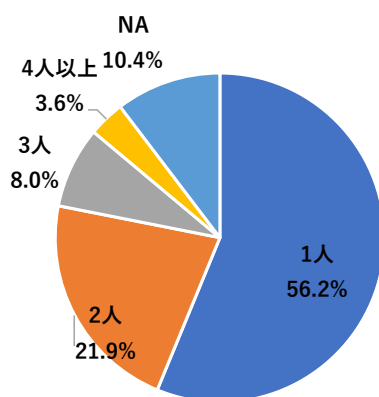


図4 回答者が孤立時に一緒に暮らしていたご家族の数（自分自身を含め）(n=338)

同居者がいたと回答した 113 件 (33.4%) について、同居していたご家族は表 1 のとおりであった。

表 1 孤立時に回答者と同居していたご家族の区分について

同居していたご家族の種類	回答数
夫・妻	60
その他家族 (大人)	16
その他家族 (子ども)	3
夫・妻とその他家族 (大人)	9
夫・妻とその他家族 (大人) と (子ども)	4
夫・妻とその他家族 (子ども)	10
その他家族 (大人) とその他家族 (子ども)	1
その他	3
NA	7
計	113

## 2-2. 普段の島外への移動と孤立時の連絡船の利用について

### 普段の島外への移動

回答者において、普段の笠戸島の島外へ移動する目的を整理した結果、表 2 のとおりとなった。複数回答可のため、延べ回答数と回答者数に占める割合を示した。その結果、買い物が 85.5%で最も多く、次いで通院が 45.0%と多かった。多くの笠戸島住民が買い物や通院で島外に移動していることが明らかになった。

また、その他についてはレジャー、外食、銀行、市役所などの回答が散見されていた。

表 2 笠戸島の島外への移動目的について

目的	延べ回答数	回答者数に占める割合
買い物	289	85.5%
通院	152	45.0%
通勤	54	16.0%
通学	2	0.6%
その他	30	8.9%
NA	2	0.6%

(回答者数に占める割合は延べ回答数÷338)

普段、1週間に何回程度、島外に行くことがあるのかについて図 5 に示した。自由記述回答のため、例えば 1~2 回という回答の場合は、少ない方を採用するなどアフターコード法を用いて整理した。

週 1 回が最も多かったが、週複数回行く回答が散見され、7 回以上という回答も 9.8%の回答者からみられた。

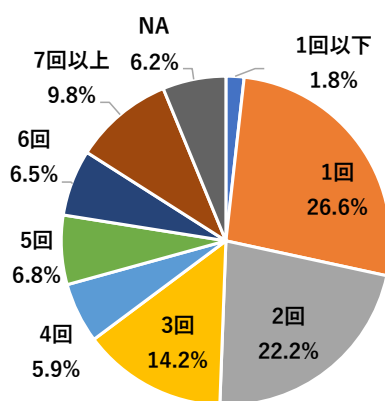


図 5 1週間に島外に行く回数 (n=338)

### 孤立時の連絡船の利用

孤立時の連絡船の利用の有無についての結果を図6に示す。287件（84.9%）の回答者が利用したと回答していた。

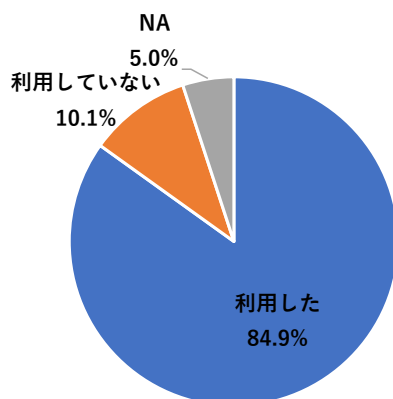


図6 連絡船の利用の有無（n=338）

連絡船を利用したと回答した287件の回答者がどこから連絡船の情報を入手したのかについて表3に整理した。職場からが最も多く、回覧板、近所や地域の方からと続いた。

表3 連絡船の情報の入手先について

情報源	延べ回答数	回答者数に占める割合
職場から	155	54.0%
回覧板	114	39.7%
近所や地域の方から	83	28.9%
携帯電話を通じて	8	2.8%
テレビ	6	2.1%
消防・警察などの広報	5	1.7%
ラジオ	0	0.0%
その他	14	4.9%
情報を入手していない	2	0.7%
NA	1	0.3%

（回答者数に占める割合は延べ回答数÷287）

連絡船の利用目的について表4に整理した。普段の島外への移動目的と同様、買い物、通院が多かった。

表4 連絡船の利用目的について

目的	延べ回答数	回答者数に占める割合
買い物	247	86.1%
通院	112	39.0%
通勤	54	18.8%
通学	1	0.3%
その他	16	5.6%
NA	1	0.3%

(回答者数に占める割合は延べ回答数÷287)

#### 連絡船において本土に渡った後の交通手段について

連絡船で笠戸島から本土に渡った後の交通手段について表5に整理した。徒歩が最も多く、タクシー、友人・知人による送迎と続いた。

表5 本土での交通手段について

交通手段	延べ回答数	回答者数に占める割合
徒歩	99	34.5%
タクシー	75	26.1%
友人・知人による送迎	69	24.0%
搬送した自家用車	43	15.0%
バス（防長交通など）	41	14.3%
社用車	34	11.8%
バス（社会福祉協議会）	25	8.7%
レンタカー	7	2.4%
搬送したバイク	4	1.4%
その他	34	11.8%
NA	21	7.3%

(回答者数に占める割合は延べ回答数÷287)

### 連絡船において不便だった点、困った点について

連絡船において不便だった点、困った点について表6に整理した。「乗れるかどうか心配であった」が最も多く、「連絡船を待つ間、暑かった」、「便数が少なかった」、「待ち時間が長かった」と続いた。

表6 連絡船において不便だった点、困った点

不便だった点・困った点	延べ回答数	回答者数に占める割合
乗れるかどうか心配があった	130	45.3%
連絡船を待つ間、暑かった	124	43.2%
便数が少なかった	106	36.9%
待ち時間が長かった	106	36.9%
港（本土側）から目的地への行き来が不便だった	89	31.0%
ダイヤ（運航時間）が不便だった	87	30.3%
船の乗り降りが大変だった	84	29.3%
自宅から港（島内）への行き来が不便だった	51	17.8%
船酔いをした	15	5.2%
船が揺れた	12	4.2%
その他	16	5.6%
NA	29	10.1%

(回答者数に占める割合は延べ回答数÷287)

### 連絡船を利用しなかった理由について

連絡船を利用しなかったとした回答者から連絡船を利用しなかった理由を問うた結果を表7に整理した。「連絡船に乗るのが困難だと考えたから（乗り降りなど）」が最も多かった。

表7 連絡船を利用しなかった理由について

利用しなかった理由	延べ回答数	回答者数に占める割合
連絡船に乗るのが困難だと考えたから（乗り降りなど）	10	29.4%
健康上の都合のため	8	23.5%
孤立した期間中、本土側に行く必要がなかったから	7	20.6%
自宅から連絡船が出ている港に行くのが困難だったから	5	14.7%
連絡船に乗りたくなかったから	3	8.8%
その他	9	26.5%
NA	5	14.7%

(回答者数に占める割合は延べ回答数÷34)